

南越前町の活断層 (二)

B 南越前町内断層群の分布
1 甲楽城断層・山中断層 越前町米ノ浦の干飯崎から本町の糠・甲楽城・今泉・河野までは各海岸線を、河野海岸有料道路付近からやや内陸部に入って大良西・大谷東・山中峠・板取までのほぼ直線状に延びる活断層である。米ノ浦以北については、直線状に北東の海中に続くという説が多いが、筆者の目には東に折れて越前岬まで続く。この断層により河野海岸では、日本列島におけるモデル的な断層海岸をつくって国定公園としての雄大な断層崖を形成している。

では、このような断層地形がどうして出来たのだろうか。それは、この断層線の東側(武生方面)からの大地が大きな力で圧縮されて西側(敦賀湾・若狭湾方面)に乗り上げた(逆断層)からである。そして西

最近は大災害はない)これらの谷川は田倉川断層を主断層とする副断層谷と推測する。

10 日野川断層 (仮称) 新道から鹿森川に沿って東進し、日野川の今庄・湯尾峠・湯尾・鯖波・大道から武生近くまで北上する柳ヶ瀬断層系の断層と考える専門家が多い。しかし、日野川断層には断層面が発見されておらず、正式な断層名もないので、筆者が名付けた仮称である。(田倉川断層も同じ)

さて、明治三十五年三月二十二日、湯尾地区を震源とするマグニチュード五・八の地震があった。地震の専門書には、福井地震と湯尾地震(仮称)の二つが必ず記されているのだが、南条郡誌・湯尾村誌・今庄町誌の何れもこの地震には触れていないので被害はなかったと推測する。しかし、湯尾地震があったことは事実なので、日野川断層の存在する証明ともなるだろう。

また、大きな目で見れば日野川断層、栃ノ木断層などは敦賀湾陥落における傾動山塊となる当町西側陸地の境界線とも考えられる。(以下次号へ)

部大地を押し下げて敦賀湾などを深くする運動ともなっている。この断層線が内陸部となる大良区西側以南では、東側から押しされた圧縮力によってきた断層崖の上部・中部が押し出されて滑り落ちていく。このため、断層線が海岸から離れている元比田・杉津では海岸扇状地をつくり、断層線が海岸に近い大谷区付近では滑落地塊が敦賀湾に落ち込んでいる。(詳細は次号で)

2 柳ヶ瀬断層 今庄地区の上新道を起点とし、二ツ屋を通り板取から孫谷川や国道三六五号に沿うように南下して栃ノ木峠を越え、余呉断層・養老断層へと続く。栃ノ木峠に立つて今庄方面を見ると、この柳ヶ瀬断層谷が一望できるが、谷の東西の山の高さを比べると東側の山の方が西側より、百〜二百mほど高い。峠から南方(滋賀県側)も東高西低である。このことから、栃ノ木断層も甲楽城断層と同じように東から押しされた大地が西側に押し上がる逆断層であることがわかる。これらの断層は、西側大地を押し沈めることで、敦賀湾や琵琶湖を形成する原動力になったと推測される。

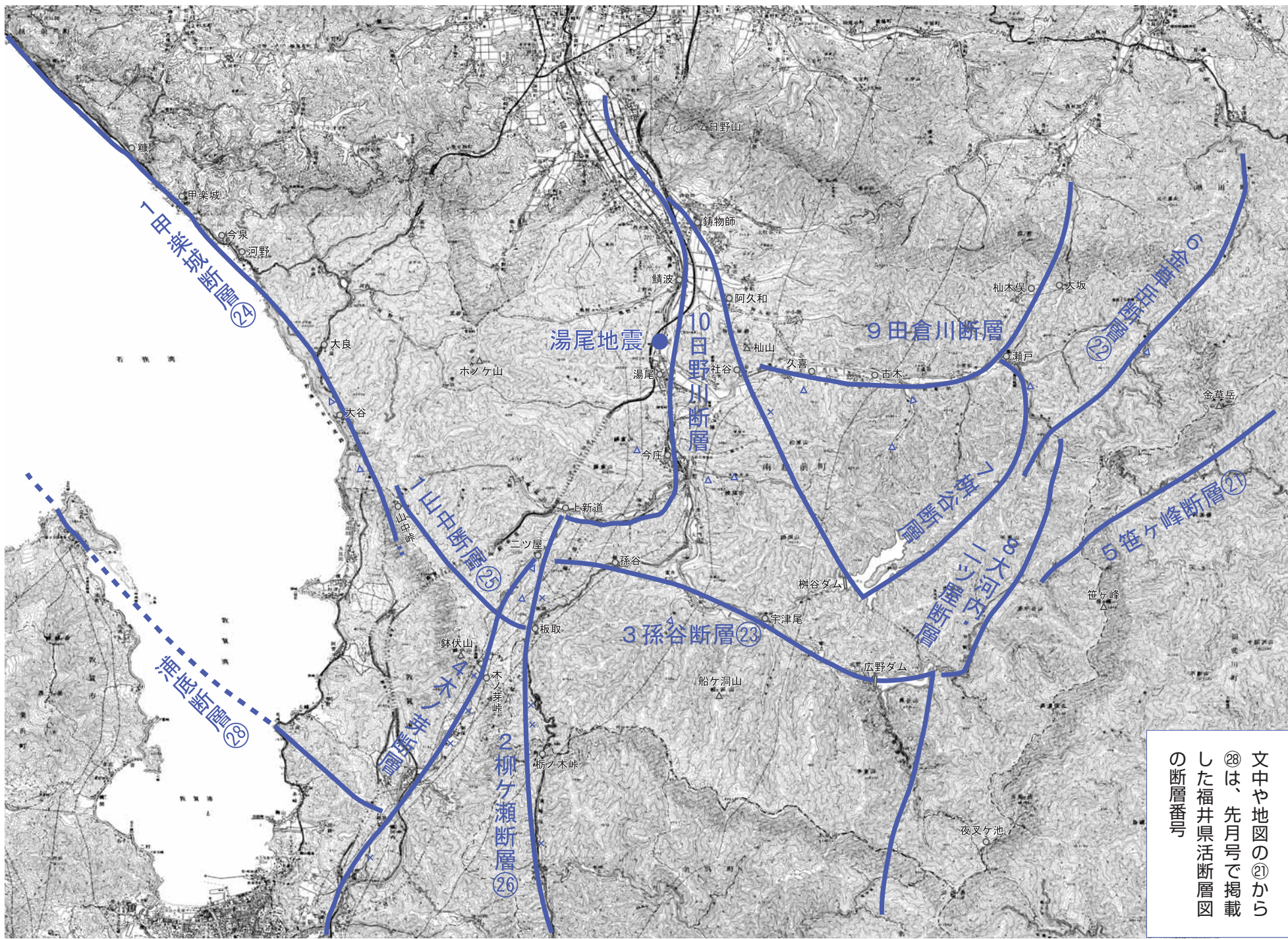
3 孫谷断層 二ツ屋を起点とし孫谷谷を通過して日野川最上流を東に進み、荒井・八飯・宇津尾・橋立・広野ダム東端で九十度南に折れて夜叉ヶ池登山口方面に延びる断層である。

4 木ノ芽断層 二ツ屋と二ツ屋谷川(木ノ芽川とも)に沿って南下し、木ノ芽峠から木ノ芽川に沿って敦賀市に入り、新保・葉原を過ぎた所で、敦賀断層と浦底断層に分岐する。

5 笹ヶ峰断層 岐阜県境笹ヶ峰北部から南西部へ東大河内川に沿う断層。
6 金草岳断層 池田町割谷川・藤倉川・東高倉谷川上流部・天草山北部にかけての断層。特に藤倉川断層谷は、断層崖から崩れ落ちた土砂石で歩くこともできない、当町最悪の谷底となる。
7 榎谷断層 瀬戸から西高倉谷川に沿って南下し、南榎谷川筋に榎谷湖西端で直角に北西進し、南大鶴芽谷川・社谷・杣山西部・阿久和・上野方面に延びる断層
8 大河内・二ツ屋断層 金草岳断層南端から西河内川に沿って南下し、旧大河内川に沿って南下し、旧大河内川に沿っての断層である。
9 田倉川断層 (仮称) 大坂(宅良峠とも)から杣木保・瀬戸・田倉川に沿う断層。この田倉川に注ぐ支流には、瀬戸に注ぐ榎谷断層谷の高倉谷川、古木周辺に流れ出る赤谷川、久喜に注ぐ大谷川上流では、地割れが沢山見られ、山地崩壊による土砂災害が多い。(アカタン堰堤など文化財に指定された連続堤の効果で

南越前町内の断層群分布図

×…確認された断層面
 △…断層崖等の滑落地



文中や地図の②から⑩は、先月号に掲載した福井県活断層図の断層番号